

## 道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 29 年度 第 3 号 2018 年 1 月 29 日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構

函館水産試験場 調査研究部

TEL : 0138-83-2893 FAX : 0138-83-2849

### 平成 29 年度道南太平洋スケトウダラ産卵来遊群分布調査（3 次調査）結果

函館水試調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：2018 年 1 月 16～20 日
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深 50～500mの海域（図 1 右上）

- ・ スケトウダラの海域平均反応量は、昨年同期を下回り、調査を開始した 2004 年度以降で最低となった。
- ・ 魚群反応のやや強い海域は白老～鶴川沖。
- ・ 反応の比較的強い水深は 250～300m付近。
- ・ 漁獲物の体長（尾叉長）は、40cm 前後及び 45cm 前後が主体であった。

1. スケトウダラとみられる魚群は、渡島から胆振海域にかけて分布していましたが、強い魚群反応がみられた海域はなく、白老から鶴川にかけてやや反応がみられる程度でした（図 1・2）。
2. 海域平均の反応量は、昨年度を下回り、3 次調査（1 月調査）が開始された 2004 年度（調査は 2005 年 1 月）以降では最も低い値となりました（図 3）。
3. 魚群反応は、水深 100～500mの広い範囲で観察されました。中でも水深 250～300m 付近には海底に張り付いたやや強い反応がみられました（図 2・4）。なお、水深 100m 付近にも反応がみられましたが、日中、漁獲物調査を行うため魚群探索を行った際には、弱い反応になっていました（魚探による分布調査は主に夜間に実施しています）（図 2）。また、水深 100m 付近で実施した漁獲物調査（トロール調査）の結果でも、成魚はほとんど漁獲されなかったことから、夜間に浮上した成魚、または未成魚の反応と考えられます。
4. 水深 250m 付近で実施したトロール調査の結果、漁獲されたスケトウダラの体長（尾叉長）は、40cm 前後及び 45cm 前後にモードがみられる 2 峰型の組成となっていました（図 5）。尾叉長 45cm 前後のスケトウダラはすべて成魚でしたが、40cm 前後のスケトウダラは未成魚混じりでした（図 6）。なお、成熟していたスケトウダラメスの 6 割以上は、まだ真子であり、昨年度の調査と比べて水子混じりの割合はまだ低い状況でした（図 6）。

今年度のスケトウダラニュースは本号で終了となります。

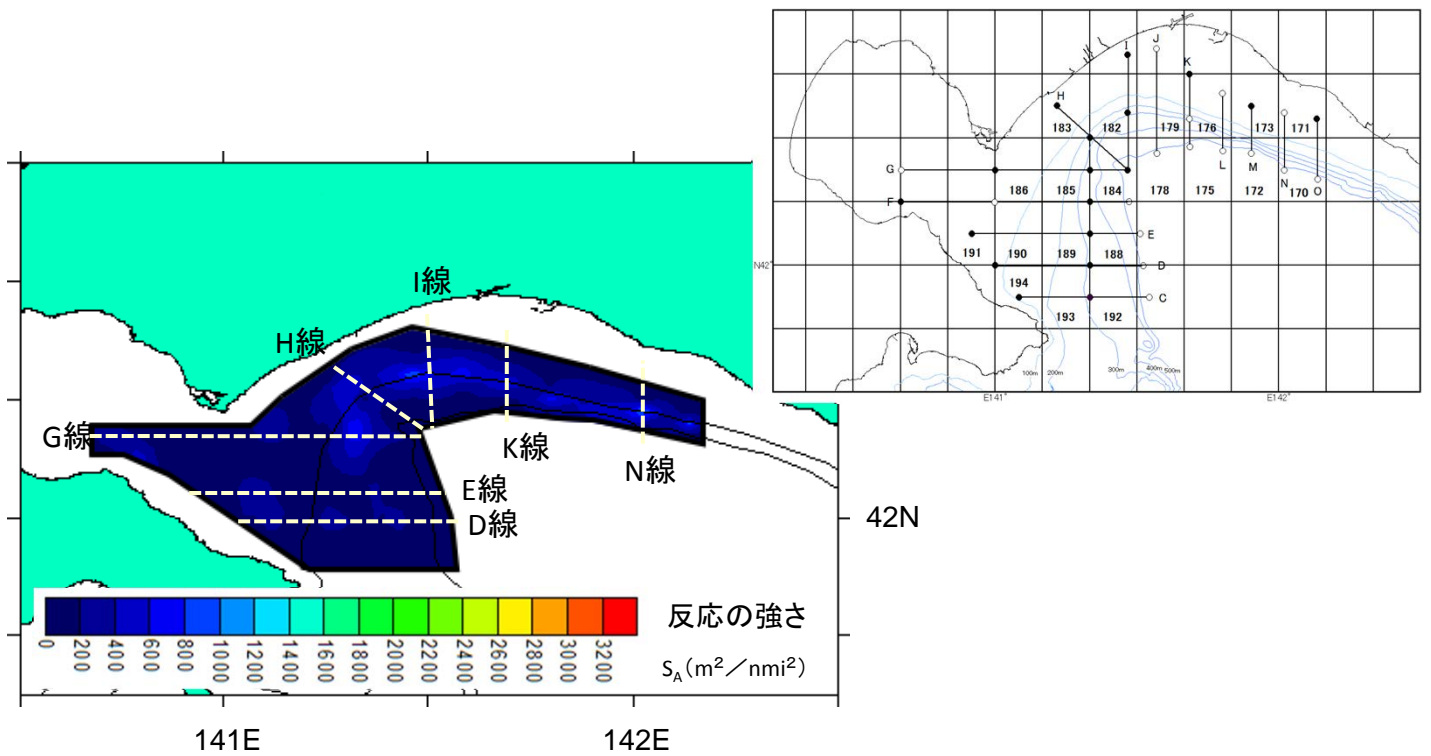


図1 調査海域における魚群の分布(右上図は調査海域図)

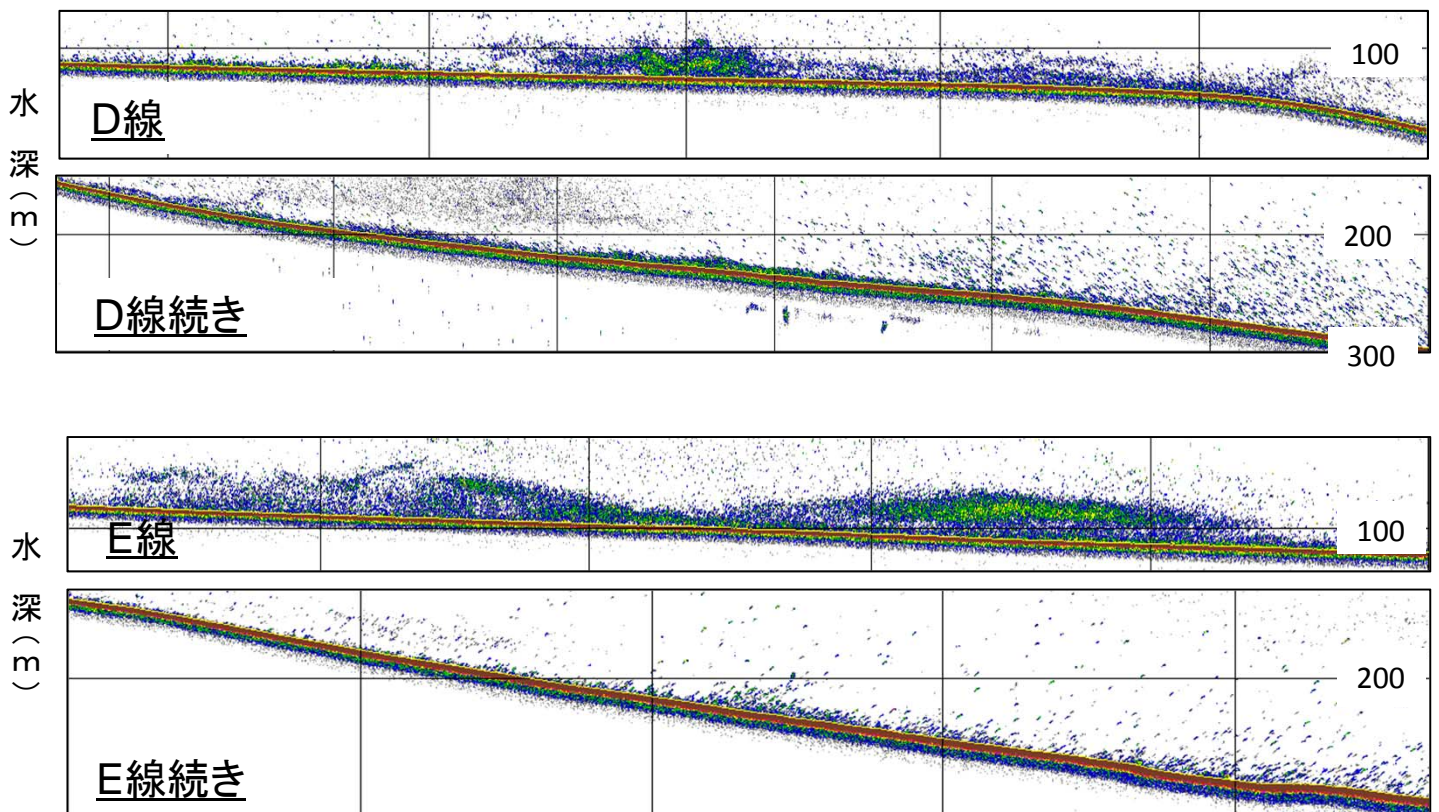


図2-1 魚群の分布状況(計量魚探画像)  
 グラフの水平ラインの間隔は1マイル, 鉛直ラインの間隔は100m

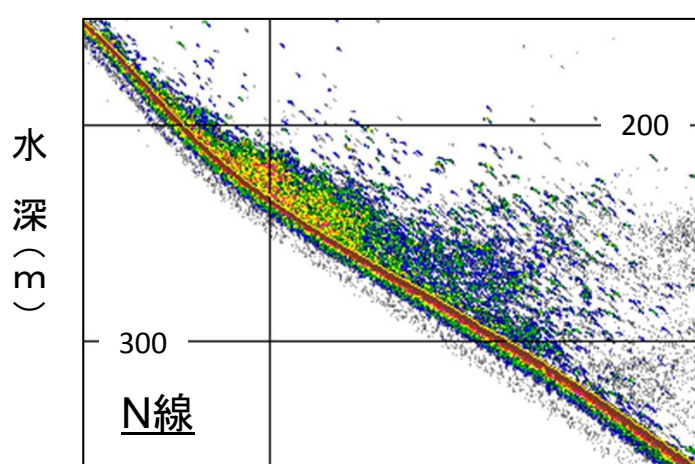
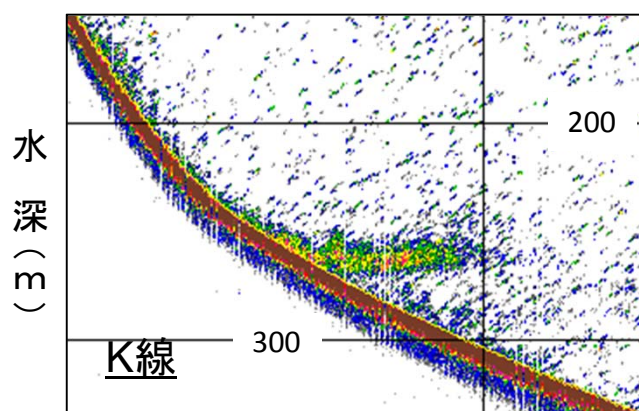
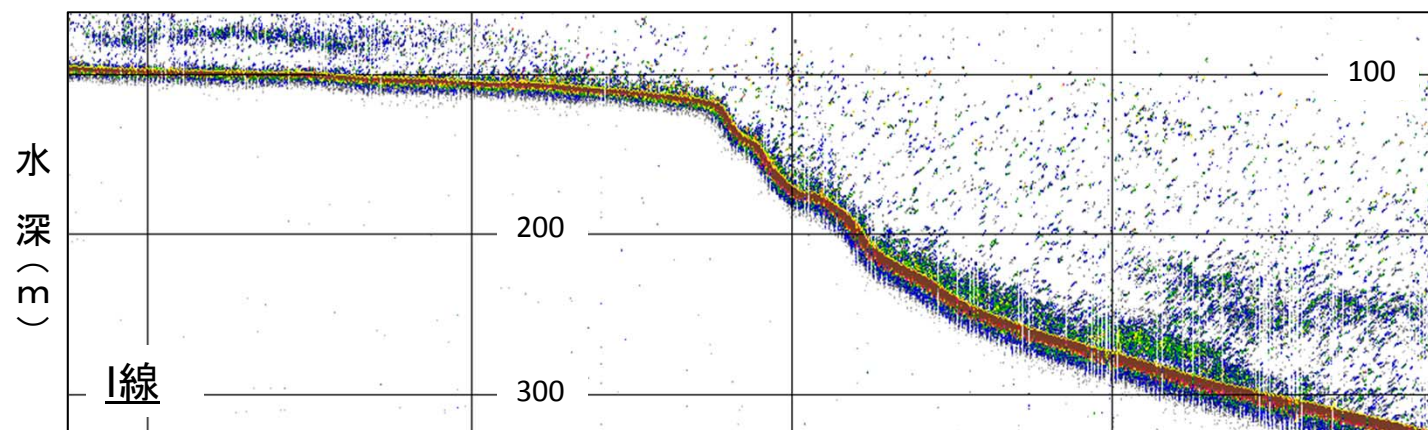
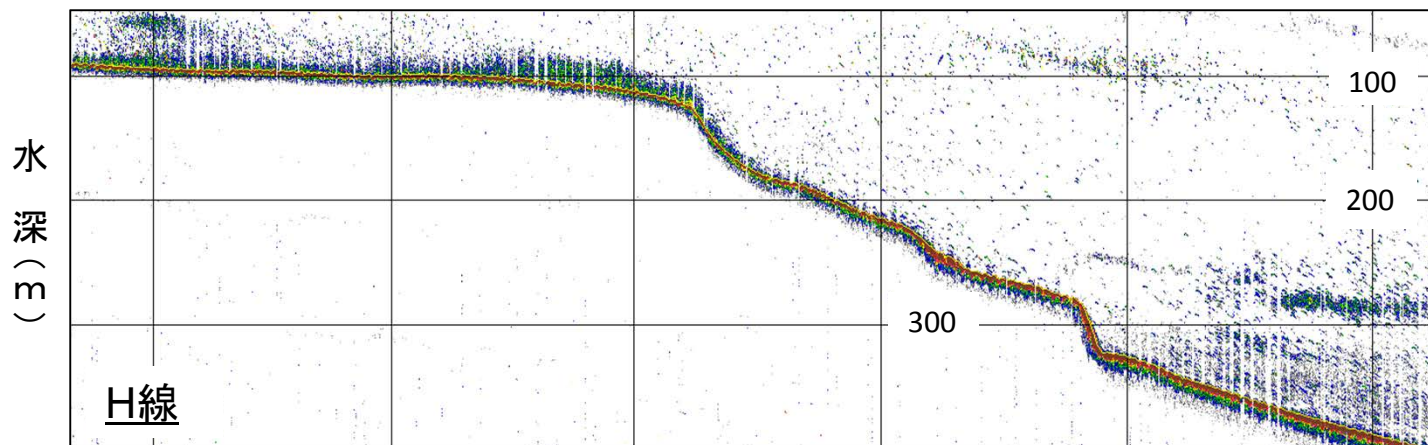
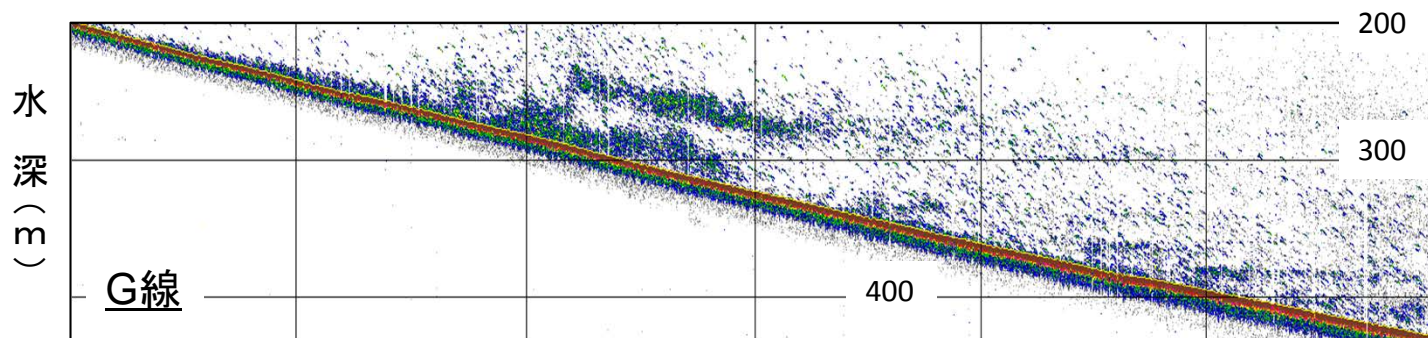


図2-2 魚群の分布状況(計量魚探画像)つづき  
 グラフの水平ラインの間隔は1マイル, 鉛直ラインの間隔は100m

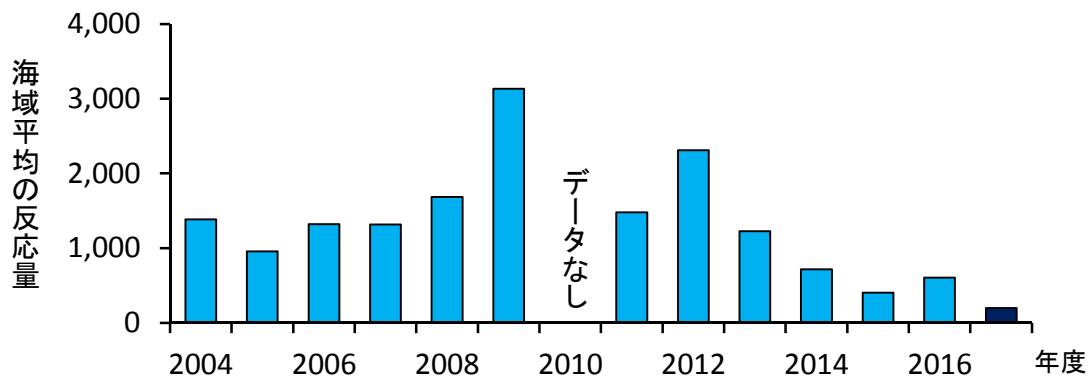


図3 調査海域における魚探反応量の推移

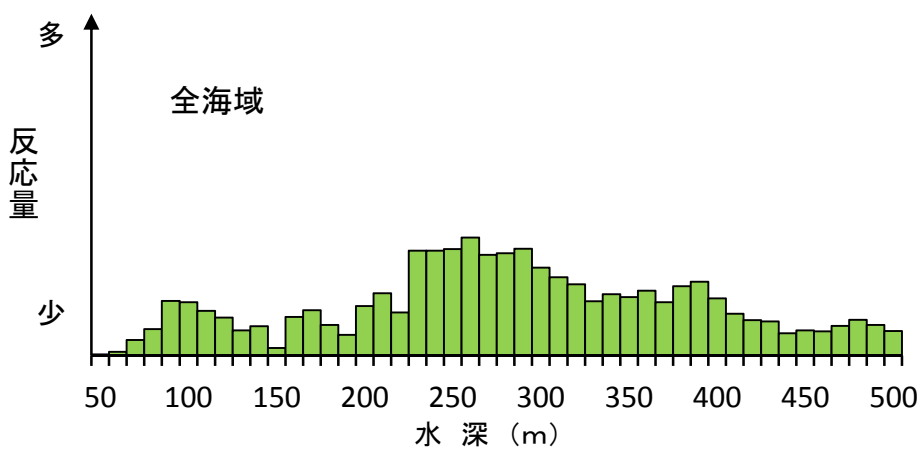


図4 水深別の魚探反応量

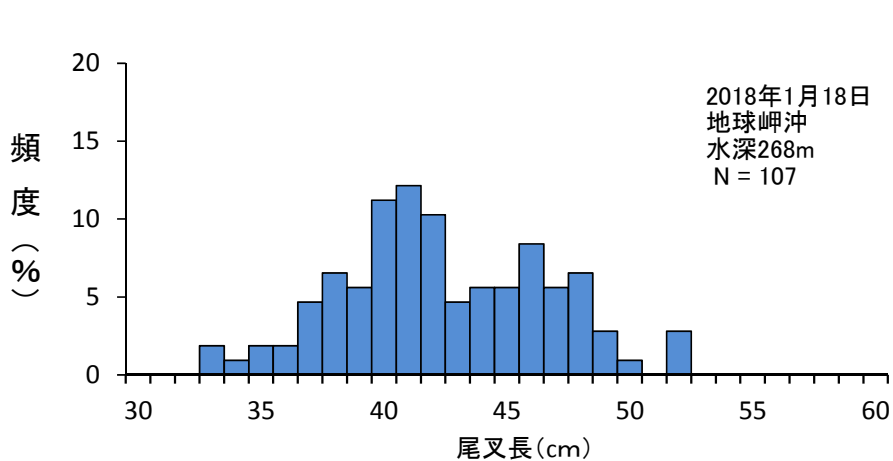


図5 漁獲物の体長組成

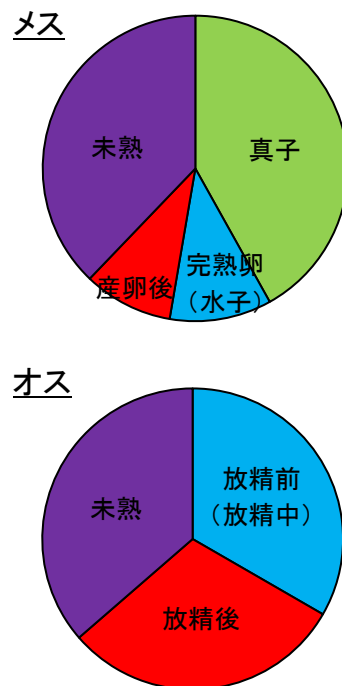


図6 漁獲物の成熟状態  
上:メス, 下:オス